

博士(文学)学位請求論文審査報告要旨

論文提出者氏名	矢内 琴江
論文題目	ケベックのフェミニズムに関する社会教育学研究 —実践コミュニティの意識化と知の生成—
審査要旨	<p>本研究は、性差別によるあらゆる人権侵害の撤廃と公正で公平な社会の構築を目指して、女性たち自身が現状の課題を認識し、差別的な社会の変革をしていくために求められる知とそれを生み出す、知の生成過程とその機構を明らかにすることを目的として行われた研究である。</p> <p>序論では、本研究の問題意識を明示する。本研究の問題意識と研究方法を規定する「フェミニズム」「意識化」「コミュニティ」の3つの鍵概念と分析の対象について述べ、またその研究方法について論述している。</p> <p>これを受けて、第1部では、フェミニズムの実践コミュニティに関する学習研究の方法論の検討がなされた。研究方法論は、主に次の3つの角度から検討された。第1は、日本のフェミニズム研究と社会教育・女性問題学習研究の双方の検討から導き出された視角、第2は、社会教育実践研究における社会教育における「文化」の問題の視角、そして、第3にケベックのフェミニズム思潮の研究の視角で、十全な先行研究の渉猟を経て研究方法が確定されている。</p> <p>第2部と第3部は、実践コミュニティの社会教育実践分析研究である。カナダ・ケベック州の2つの社会教育、成人教育の実践コミュニティを研究対象として据えている。</p> <p>第2部は、フェミニズム・アートのギャラリー「ラサントラル／ギャラリー・パワーハウス」を取り上げ、女性たちの創造性を支えていくコミュニティの展開のプロセスとその構造のあり方を解明している。ギャラリー「ラサントラル／ギャラリー・パワーハウス」は、カナダ・ケベック州モントリオール市に設立されたアーティスト・センターである。女性アーティストによって運営されているものとしては、カナダで最も古く、北米でも2番目に古い運動体である。</p> <p>また、第3部は、生活保護受給者や低所得者をサポートする支援者の学習グループである「ケベック意識化グループ」の分析である。「ケベック意識化グループ」は、健康、社会福祉、教育の分野等の民衆団体、政治団体、女性団体、先住民団体、生活協同組合に関わっている人々のネットワークで、メンバーは様々な社会的抑圧に立ち向かう実践に取り組んでいる。1983年から実践記録集3冊を刊行し、メンバーの考察をまとめた『意識化ノート』13冊も刊行されている。</p> <p>この2つの実践は、1970年代にケベックの急激な近代化の中で起こった実践である。それぞれにケベックの女性解放運動と性差別克服に取り組み、そのコミュニティの形成は、実に丁寧に組織化され、そのプロセスそのものが人々の意識化のプロセスであり、学習過程であった。社会の諸課題に抗し、性差別を克服するプロセスとして評価できる実践であるとともに、その展開の中で創出される関係性やシステム、意識化のための方法等、フェミニズム運動の視点からも社会教育実践の視点からも研究対象として豊かな質の展開を示している。また、双方とも、質量ともに膨大な記録が生み出されており、そこには、人々が現状の諸課題を認識し、現状を変革していく中で新しい知を生み出してきた経緯を見ることができる。矢内氏は、それらの質量ともに膨大な記録を読み解き、解明することに努めた。</p> <p>以上の検討を経て得られた女性差別、性差別を克服するための知の生成の機構として見出せた要件は、「実践の省察」であり、その省察を支える「記録」と「他のコミュニティとの協働関係の組織化」である。二つの実践コミュニティのみならず、高等教育機関との関係や中間支援組織「ルレ・ファミ」なども視野に入れて研究が</p>

氏名 矢内 琴江 _____

展開されている。

以上が本研究の概要であるが、この研究が取り組み、そこから導き出された結論や課題は、今日の日本の社会教育実践研究にとって大いなる成果をもたらしたと言えるのみならず、教育実践研究、対人援助職の実践研究などにも大きな意味を持っていると評価することができる。現在、学校における教育実践の展開とそれを支える教師の授業実践力の向上、看護・医療、福祉等の対人援助職における専門的力量形成にとって、実践の省察と記録化、その共同の分析、それらを協働でおこない展開させていくことが急務とされている。それらは、ともに専門領域を異にしつつも、成人の学習の営みであり、成人の意識化、思考の枠組みの展開の問題であり、本研究はそれらに大いに貢献することが期待される。

また、本研究では、研究方法として主題とする性差別の構造的転換と人々の意識の転換をもたらす学習の様態を明らかにするために、社会教育学が蓄積してきた、社会教育実践分析の研究手法論とフェミニズムの中で編み出されてきた意識化研究、意識化実践分析研究の手法論に学び、組織の展開過程に即して、組織学習の分析を行い、その中での人々の学びの展開を明らかにした。さらにそれを支え、人々の意識化を促進する記録の意義を明らかにした。それは、日本の社会教育研究、戦後民主主義社会の形成と教育のあり方を追求する今日の社会教育実践分析研究、成人学習過程研究の中でも、最先端を切り開く意欲的な研究といえる。さらに、ケベックでの民衆の意識化の営みを日本に紹介した先駆的な研究であることも大いに評価できるものである。

以上により、本研究は、博士学位の授与にふさわしい論文であると言える。

公開審査会開催日	2018年 3月 27日			
審査委員資格	所属機関名称・資格	氏名	専門分野	博士学位
主任審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	村田 晶子	社会教育学	
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	梅本 洋	教育学	
審査委員	神奈川大学 名誉教授	入江 直子	社会教育学、フェミニズム教育学	
審査委員				
審査委員				